

洗礼を受けられたイエス様 (ルカ 3:21-22)

ヒューマニズムというのは、人間そのものを最高のところに位置づけして、すべてのことを人間の理解の範疇で処理しようとする思想です。それ以外のものを否定するようになっているものをヒューマニズムと言います。ある程度、一理があるものではありません。しかし、クリスチャンの私たちは問いかけないといけません。その人間の理解の範疇の中で、私たちに与えられた救いを説明することができるのかと。今日の聖書の箇所を通して、救いはヒューマニズムによる人間の理解の範疇に収まることのできない神様の恵みであることを確認していきたいと思います。

今日の聖書には、バプテスマのヨハネが洗礼を授けていたその時に、イエス様ご自身も洗礼を受けられたというお話です。ほかの聖書を見ますと、ヨハネがイエス様が来られた時に、これはとんでもありません。私が受洗しないといけない身なのに、洗礼を授けるべき方が洗礼を受けることなんてありえませんと断っていたのです。その時にイエス様が、わたしが洗礼を受けることで神様の義を全うすることになるとおっしゃって洗礼を受けられたということが記されています。神様の義を全うするとんでもない、ありえないイエス様の洗礼。それはどういうメッセージを私たちに語っているのかということを確認していきましょう。

1. 人の救いは世のどの理論にも当てはまらない不可思議なもの。

第一に、イエス様が洗礼を受けられたことで、人の救いは世のどのような理論にも当てはまらない不可思議なものであることが明らかにされました。もう一度言います。人の救いはこの世にあるどのような理論でも理解できない、また説明することができない不思議なものなのです。

1) イエス様が洗礼を受けられる???

イエス様が洗礼を受けられたバプテスマのヨハネも、最初、これはありえないと断っていたのですが、それはごく自然で当たり前でしょう。イエス様が洗礼を受けられるということはありません。なのに、イエス様は洗礼を受けられました。イエス様が洗礼を受けられたということは、罪のない神の御子であるイエス様が罪人になられたという意味なのです。罪人と一緒になられた。しかも罪人の代わりになって罪人のすべての罪を背負って身代わりとして死なれるという意味なのです。それがイエス様が洗礼を受けられたことを通して示されている内容なのです。洗礼というのは、水にその人の体を沈めて、また起き上がらせるようなものなのです。罪のないイエス様が罪人となられて、罪人の身代わりとなって死なれることで人の罪をきよめられ許すことができる。その後、復活なさるという意味がイエス様の洗礼を通して私たちに教えられる内容です。だからイエス様が洗礼を受けられたということは、よくよく考えてみてください。ありえないことなのです。世の中のどのような理論でこれが説明できるのでしょうか。どういう法則にこれが当てはまるものなのでしょうか。私たちはクリスチャンでありながらも、あまり深く考えたことがないかもしれません。

2) 因果応報、道徳倫理、資本主義、共産主義、民主主義、等々

世の中の法則の中で一番定番になるものが、因果応報の法則です。その因果応報の法則に対して真逆のことをイエス・キリストはなさっていらっしゃいました。それがイエス様が洗礼を受けられたということなのです。また、世の中を維持するために人々が唱えている理論が道徳倫理というものなのです。道徳や倫理の法則に従って考えても、罪のない神の御子をイエス・キリストが、罪人になられて身代わりとして死ぬということは説明できません。道徳では説明不可能なそういう出来事なのです。また、いま世の中の思想のメインのストリームというのが資本主義というものがある、その反対のものが共産主義というものがある、いま戦争までしているわけですね。その資本主義のどこの理論をピックアップしても、共産主義のどのようなすごい立派な理論をピックアップしたとしても、そこでイエス様の洗礼、イエス様の十字架は説明できません。また、多くの方が民主主義こそ世界を守るために必要なものだと訴えています。その民主主義も限界があり、民主主義のどのような項目を取り上げても、イエス様の洗礼、イエス様

が罪人のために死なれるということは説明できません。元々、人が持っている理論、法則というものはそこまでのものなのです。その他にも宗教や哲学や個人の価値観など、いろいろなものがありますが、それが全くいらぬという意味ではありませんが、キリストの救いを解き明かすことができるものは何一つ見当たりません。それがイエス様が洗礼を受けられたことを通して私たちに示されることなのです。なのに、なぜイエス様は、世にあるどのような理論、法則でも説明できない洗礼を受けられたのでしょうか。なぜそれが成り立っていたのでしょうか。

3) この道以外に救いのない絶対解決不可能な人の問題

なぜかと言いますと、そのとんでもない不可思議な説明できないイエス様の洗礼、イエス様の十字架の道のほかに私たちには救いの道はなく、絶対不可能な解決不可能な問題を抱えているからなのです。世の中にあるどのような立派な理論、思想でも説明できないのです。人間の問題が何かということが分かれば、イエス様の不可思議な十字架の救いのことが受け入れられることとなります。人は誰も分かっていない根本的な問題を考えています。私たちを造られた神様を離れて、目に見えない悪魔サタンの奴隷になった結果、生まれながら神の御怒りを受けるしかない子らとして生まれることとなります。これがすべての人の根本なのです。このような人間をサタンは牛耳って罫にはめ込むわけなのです。自分中心、目に見えるもの中心、この世中心というものにはめ込んで溺れさせるわけです。その結果、人々は枠に捕えられて抜け出すことができません。そのような罫にはめ込まれているので、人間は仕方がなく、宗教を求めしかありません。偶像崇拜に走るしかありません。シャーマンに頼るようになるしかありません。それが枠となって、そこに閉じ込められることになるわけです。そういうことも知らずにみなが幸せになりたいと一生懸命頑張ってもがきをしていますが、幸せになることができないまま、不幸の運命に縛られることとなります。人はたましいが死んだままの状態なので、たましいは何がどう変わろうがずっとさまよい続けるしかありません。それが考えと心に影響を与えるので、人の心と考えに根本的に安らぎと安息などは見当たりません。このような状態が何かをきっかけにして表に症状として現れます。それがうつ状態やパニック障害や過食症、拒食症等々の精神的なさまざまな疾患として現れて、人間の頭では理解できない不思議ないろいろな病が肉体を蝕むようになり、家庭が崩壊して人間関係にひびが入って、人生そのものがあちこちから壊れていくようになります。その結果、人間には一度死ぬことと死後にはさばきを受けることが定まっていて、永遠に滅びるようになってしまいます。このような運命に囚われてそこから逃げ出すことができません。いくらもがいても運命に囚われて逃れることができないわけです。しかも自分が死んで終わることではなく、これが子孫にまで遺産として受け継がれることになり、延々とずっと続くようになる運命に囚われて生きていくものなのです。世の中の誰もどんなに博識な人間でも、この人の問題は分かっていません。人の問題が分かっていないまま人間中心に考えて、そこから生まれた思想や法則や議論なのです。それでこの滅びの運命から救われる人間の救いのことが説明できるのでしょうか。人はこのような絶対不可能な問題を抱えているので、神様は最初から人間の理解には及ばない、どのような理論にも当てはまらない福音の祝福を約束されました。

4) 創世記 3:15、イザヤ 53:6、マタイ 16:16

女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く。人間では解決できないので、女の子孫、神の御子が来られるしかなかったのです。悪魔の頭を踏み砕くこと以外に人の問題の解決はありません。イザヤ 53:6には、この神の御子、罪のないキリストに私たちのすべての罪を負わせたとおっしゃっています。それ以外に何も私たちの救いのことを神様は言及していらっしゃいません。それしか方法がないので。誰もどのような理論でも理解できません。その約束の女の子孫、キリストが世に来られました。その方がイエス様なのです。だからイエス様はとんでもないありえないことなのに洗礼を受けられました。主は生ける神の御子キリストです。その他に方法がなかったからなのです。救いというものは、このように神様ご自身が絶対解決不可能な霊的な問題を抱えている人を救われるために、御子イエス・キリストを十字架に引き渡されることのほかに方法がなかったものなのです。何をもちて理解できるのでしょうか。どういう法則に当てはまるのでしょうか。

日本人にとって長所でもあるし、また信仰の目から見ると短所でもあります。日本人は思慮深い民族であり、先進国なのです。何もかも深く細かく、また慎重に慎重に重ねて重ねて考える習慣を持っているので、ものづくりは世界最高なのです。なんでもかんでも勝手に韓国の人みたいにパパッとやることなどあ

りません。だから日本人が好きな言葉の一つが、理解という言葉なのです。先進国はほとんどそういう傾向がありますが、それが意味では人間そのものに対しての誇りでもあるでしょう。残念なのは、それが短所に代わってクリスチャンになってからも理解しようとするのです。理解というものは、後々に必要なものでしょうけれども、ヒューマニズムから生まれて、人間を最高のところに位置づけしたところから生まれたものなのです。それをもって、それでは理解できない、何にも当てはまらない神様の不可思議な不思議な救いを理解しようとするから、教会に何十年通っていても信仰が成長しないし、その人はなかなか変わらないし、いやされないのです。

5) 救いは理解するのではなく信じるもの

神様の救い、キリストによる救いというものは理解するものではなくて信じるものなのです。何で理解できるものなのでしょうか。神の御子イエス・キリストが、自分の罪のために自分の身代わりとして、しかも二千年前に十字架で死なれたことが理解できるのでしょうか。二千年前に死なれたことによる救いが今の私たちに、今の自分に適用されて自分のものになれるということが理解できるものなのでしょうか。私たちの頭の理解の範疇の中にどのような項目でそれが理解できるものなのでしょうか。ぜひほかのところでは日本人らしく理解、理解で良いのですが、救いを考えるときには理解ではなくて信じてください。私たちには理解する能力がありません。信じることのほかに許されていません。もう少し考えて、それから信じるかどうか決めますよと。もちろん理解できます。それが今までの自分のライフスタイルだったので。自分の理解の中ですべてを納めて動かされていた、そういう人生を歩んできたものなので、キリストの救いの前でもそのような反応をするということは充分理解できます。だから神様がその人に信仰を与えられて信じるようにならないといけません。イエス・キリストが洗礼を受けられたということを通して、私たちの救いはありえない人間の理解の範疇をはるかに超えて、神様の不思議な救いの働きだったということを知ってください。それには私たちの力では絶対解決不可能な問題を抱えているということに目を留めて、もう一度素直に向き合ってそれを受け入れるようにしましょう。誰をさばくことができるのでしょうか。何を自慢できるのでしょうか。何が比較できるのでしょうか。このことが本当に分かっているならば。これが初めて分かった人種をクリスチャンと言います。クリスチャンの他には分かっていません。なので、周りの人々に理解を求めるといことはクリスチャンのやるべき望ましいことではありません。私たちのお証しをもって神様が備えられた人が信じるようになる、その道を進んでいだけなのです。イエス様が洗礼を受けられたということは、裏返しますとこのようになります。

2. 人の救いは神様の無条件の愛と一方的な恵みによる賜物。

二番目です。人の救いは神様の無条件の愛と一方的な恵みによるものなんだということを物語っています。聖書にはそのようなことが数多く書いてあります。

1) ヨハネ 3:16、ローマ 5:8、エペソ 2:8、I ヨハネ 4:10

ヨハネ 3:16 を読みます。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」。この神様の愛のほかに、しかも無条件の愛のほかに私たちの救いは説明できません。他に何かを当てて理解しようとするのは最初から失敗なのです。ローマ 5:8 にも「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます」。「まだ罪人であったとき」とはどういう意味か分かりますか。偶像崇拜して神を否定しながら神様に敵対していたそういうとき、悪魔のしもべとして空中の権威を持つ悪魔に従って歩んでいたそのときなのです。皆さんにちょっとだけでも損害を加える人に対してでもどういう思いで対処するのでしょうか。ちょっとだけでもありません。私たちがまだ罪人であったときに、「そうか、罪のない御子キリストを送って、ああいう人たちを救おうじゃないか」という神様の愛、その愛が理解できるのでしょうか。無条件の愛なのです。だから信じることのほかにありません。その他に救いを説明できるようなことは、その根拠はどこにもありません。だから、エペソ 2:8 にはこう書いてあります。「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です」。これもなかなか理解できないのです。お世話になりました。ありがとうございます。あるいは自分なりの何かを求めるためにプレゼントとかいろいろやるでしょう。恵みのゆえに、神様の一方的な恵みによってただで与えられたもので

す。それも私たちの頭ではありがたいのですが説明できません。罪人に対してただで与えられた救い。神様の一方的な恵みのゆえに信仰によって救われたのです。それでIヨハネ4:10にはこのように語っています。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」。多くの教会が愛、愛と唱えています、そのニュアンスが今ここで聖書が言っているようなニュアンスとはちょっと違うのです。この愛は私たちの頭では理解できません。また感情的なものでもありません。神様の無条件の愛によって一方的な恵みなのです。そこに私たちの何かはこれっぽっちでも加えられるような余地は存在しません。それが救いなのです。だからこそその救いをただ私たちは受け入れるだけなのです。ただいただくだけなのです。

2) ヨハネ 1:12、ローマ 1:17、ガラテヤ 3:6-8

「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」。救いは、私たちにとっては受け入れて信じることの他にには何もありません。理解ではありません。だから聖書のすべてを絞って語っているような箇所が、ローマ 1:17 です。「義人は信仰によって生きる」のです。信仰に始まり信仰に進ませるからです。この信仰という言葉を理解するためには、神の無条件の愛と一方的な恵みが前提にならないと信仰という言葉は成り立たないし、うっかりすると人間の信念みたいな理解をしがちなのです。そういうものではありません。これが救いなのです。イエス様が洗礼を受け入れたことで、このような救いの奥義が私たちに語られることをぜひ覚えましょう。それパウロはガラテヤ 3:6-8 でこのようなことを語っています。「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあるとおりです。ですから、信仰によって生きる人々こそアブラハムの子である、と知りなさい。聖書は、神が異邦人を信仰によって義とお認めになることを前から知っていたので、アブラハムに対して、「すべての異邦人が、あなたによって祝福される」と、前もって福音を告げました」。異邦人でも誰でも信仰によってというのは、人間の何かではなくて、神様の無条件の愛と一方的な恵みにより、御子イエス・キリストが十字架で犠牲になることによって明らかに示されることになりました。それを信じることで。そこに人間の何かは一つも入る余地がありません。今までの歴史を見ますと、人間の何かはこれっぽっちも入る余地がない神の無条件な愛と一方的な恵みによるイエス・キリストの十字架の犠牲による救いなのに、サタンはそこに人間の何かを付け加えようと教会の中で策略を持って働いていました。聖書を見てもそれが紹介されているし、教会の歴史の中でずっとその戦いなのです。それに少しでも隙があってそのような思想、考え方が入り込むと、教会は時間が経つにつれて教会でなくなります。宗教団体と同じものになり、慈善団体、倫理の団体に転落してしまったということが教会の歴史なのです。

3) 人のことを加えたり、混ぜたりできない

なので今申し上げましたように人の救いが神様の無条件の愛と一方的な恵みによるものだということが分かれば、そこに人のことを加えたり、人の何か混ぜたりすることはできません。してはいけません。そういうことはありません。

4) 罪人が救われることは神様の最高の喜び

なので、このような救いは神様の喜びであるということがまた紹介されています。ルカ 3:22 に、イエス様が洗礼を受けられた後、神様がこのようにおっしゃいました。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ」。イエス様を喜ぶというのはもちろんなのですが、なぜイエス様を喜んでいらっしゃるのでしょうか。洗礼を受けられたから。神の救いの方法に従っていたから。つまり無条件の愛による一方的な恵みによって御子イエス・キリストが、罪のない神の御子が十字架で犠牲にされるということに従っていたわけです。神様はそのようにして私たちが救われることが神様の喜びでした。無条件の愛と一方的な恵みによる救いであり、到底私たちの頭では理解できないその救いを神様は喜んでいらっしゃいます。だから救いが成り立つようになるということをぜひ覚えていきましょう。

なので、このメッセージをたくさん聞いて分かっているかのような思いをしないで、真剣にこのメッセージと向き合っていたいただきたいと思います。受洗されましたイエス様、言葉を変えますと、十字架のイエス様の前に立ちましょう。その前に立ったときに、人のすべてを下すことになります。人のすべての理論、法則、思想、価値観等々、なんでもすべて全部下ろしましょう。それが通用しないのです。その何も

のにも当てはまらないのです。全部下ろして、ただ一つ、神様の無条件の愛と一方的な恵みの前にしっかり立って、イエス様がバプテスマのヨハネにこのようにして神の義を全うすることになるとおっしゃったように、ヨハネ 19：30、十字架の上ですべてを完了したと宣言なさいました。何を完了したのでしょうか。神の義を全うすること、私たちの救いのすべてを完了しました。解決不可能な霊的な問題、根本の問題、過去現在未来のすべての問題を全部打ち砕いて、そこから解放させて、神の霊が宿るいのちあるものとして、神の子どもとして私たち造り変えられる、これからは聖霊のバプテスマによって他の人を生かして、この国にこの地上に悪霊を追い出されて聖霊が臨まれる神の国のために生きていくことができるすべてを完了したと宣言していらっしゃるのです。そのことを素直にありのまま受け入れるように信じて感謝しましょう。神様の無条件の愛と一方的な恵みの前に立って、それ以外のすべてを全部下ろし、私に対する神様の救いのわざがすべて完了したことを信じて感謝しましょう。どういう問題があるのでしょうか。どのような過去を歩いてきたのでしょうか。今現在どんな厳しい問題課題を抱えているのでしょうか。それに騙されないで、神の無条件の愛と一方的な恵みの前ですべて完了した、すべてが終わった、それを感謝しましょう。なぜそれを信じないのでしょうか。理解しようとするからです。いまだにこういう弱さがあるのに、こういう問題があるのに、何が完了なのかとまた頭の理解が動くようになるのです。それでは死んでも理解できません。信じることです。イエス様が十字架の上で血を流されて死んだことで、私の人生の中で解決できていないものがあるとすれば、イエスはキリストではありません。そこに何が足りないところがあるのでしょうか。話にならないのではないのでしょうか。なので、他のすべてを全部下ろして、邪魔するすべてをカットして、自分の理解を全部カットして、神の愛と恵みだけを根拠にして自分の何かを加えてはいけません。すべて完了したことを信じて感謝して、私の何かと関係ない救いを確信しましょう。救われたと。そうすることでイエス様がおっしゃっているように、気になっているさまざまなこと、さまざまな祈りの課題、関心事などに対して、それはあなたがたは知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれますと、力を得て、エルサレムからユダヤ、サマリアの全土、地の果てにまでイエスの証人となるという約束の方に進むことができるわけです。救われたという確信を持つことで救いの祝福が全部自分のものではないのでしょうか。御座のすべての祝福が自分のものなのです。聖霊のバプテスマが私のものなのです。地の果てにまでイエスの証人となるのが私のものなのです。それを宣言して、それを味わう方向にターンしないといけないのに、救いの確信がなかなか持てないのです。なぜ持てないのでしょうか。問題があるからでしょうか。弱さがあるからでしょうか。教会の経歴が浅いからなのではないでしょうか。とんでもありません。信じないからなのです。理解ではなくて信じないから。神はすでに私たちのために私たちの頭では理解できない御子イエス・キリストを十字架に引き渡されて、すべてを完了なさいました。信じるべきなのです。感謝して。そのように救われたことを疑わせるどのような理論も存在しません。私たちが騙されるだけなのです。神の無条件の愛と一方的な恵みのほかに私の救いは説明できないのに、どこに当てて説明しようとして理解しようとしているのでしょうか。それが騙されることなのです。ヒューマニズムがあまりにも長く根付いているからです。それを全部取っ払って、今日のメッセージを通して、そういう意味ではヒューマニズムのさまざまな知識や理論からは無知な人になりましょう。無学な人になりましょう。それが有利なのです。神様はおろかな人、無学の人、無能な人を召されて、力ある者を辱めることをしていらっしやいます。なぜなのでしょう。自分の知識や理論や価値観などでこの救いを図ろうとしているからです。救いはそのようにしては救いはその人のものになりません。全部下ろして私の何かがこれっぽっちも入らないようにしましょう。ただ神様の一方的な恵み、無条件の愛、それも理解はできません。でも、それしかないのです。なるほど、それで救いが成り立ったのだな。だから私は何も考えずに、何も疑わずに、何も理解しようとせずに、感謝をもってください。イエス・キリストを受け入れたのであれば私は救われました。完璧に救われました。今足りないところがあり、今問題があるにしても、私に対する救いは完全なるものなのです。だから、他のなにかを気にしないで、救われた者なんだから救いの祝福の方に向かおう。あなたがたはそれは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれますと。あなたには聖霊のバプテスマがあるではないか。何を食べるか飲むか心配しないで、それを求めなさいよ。この人間があの人間が気に入らない。そういうことを気にしないで、聖霊が臨まれますと、御座の祝福があなたに豊かに豊になること、そこを目指しなさい。頭が悪い、勉強ができない、うちの家庭は何なのか、私の性格はなぜこんな性格なのか、そういうことを気にしないで、ただ聖霊が臨まれますと。それを気にしなさい。気になることがいっぱいあるでしょう。なぜいっぱいあってそこに引っかかっているのでしょうか。ヒューマニズムなのです。神の恵みのゆえに信仰によって救われた者です。永遠に忘れないで考えてください。イエス様が洗

礼を受けられました。ありえますでしょうか。ありえません。地上のどこをどの理論を見ているもありえません。だから天上の祝福なのです。それが私たちに届きました。だから救いは計り知れないのです。計り知れないからただで与えられました。もしお金で換算すると、うちらは払えないから。ただで与えられたということを軽く思う場合がありますが、あまりにも大きいからただで与えられたのです。世の中にあるどういうものでもそれを受け入れることができない、説明できない、収めることができないものなので、ただで与えられたものなのです。救いに対しての疑いや迷いなど全部消してください。それは悪魔のささやきです。理由がどうであれ、いくらもっともお話であっても、全部悪魔のささやきなのです。ただキリストだけ。神の恵み、神の愛それだけに目を注いで、だから私は救われたのだ。救われたのであれば、救いの祝福は私のものだ。救いの祝福は数え切れなんでしょう。でもそれを一言で申し上げると、聖霊が臨まれると。そちらの方にいきましょう。祈りましょう。問題があつて祈るのではなくて、ただ祈りましょう。自分の内側から変わるように。自分の内側が神の国になるように。ヒューマニズムが全部壊れて神の国なるように、不信仰が壊れて信仰の国になるようになると、エルサレムから地の果てにまで証人となります。必ずなります。それを証明してみせるのが私たちのミッションなのです。

(祈り)

恵み深い父なる神様。神の恵みにより不思議な神の愛によってイエス・キリストを信じて救われていのちを与えられ、最高の祝福の存在になったにもかかわらず、古きヒューマニズムに振り回されて、悪魔をささやきに騙されて、救いの確信が持てないでいることを主が許してください。今日のメッセージを通してヒューマニズムの自分の何か、世の中にあるどうのこうのを全部取っ払って、神の愛と恵みだけに目を注いで救いの確信を持って他のことに惑わされることなく祈ることができるように、御座の祝福を求めることができるように、聖霊のバプテスマを求めることができるように。それで残りの生涯、悪霊が追い出されて聖霊が臨まれる神の国とともに歩む勝利の人生になるようにひとりひとりを祝福してください。何にも問題にならないことを証明することができるようにひとりひとりに豊かに祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。